

- 令和6年度 終業式より -

それぞれの春休みが、実り多き時間になることを願っています。



早いもので**アツ**という間に年度末を迎えました。

そこで、1年間にわたって校門指導に当たっていた先生方に**インタビュー!**



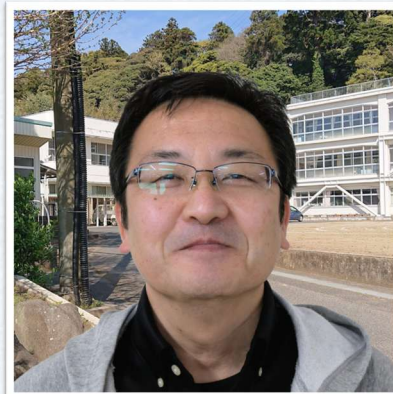
毎朝の「おはよう」がつなぐ心

～ 生徒・小学生・地域を結ぶ朝の登校指導の1年を振り返って～

生徒指導部長として、毎朝校門前に立ち続けた五十川先生。

この1年、スクールゾーンの安全確保とあいさつ運動を兼ねて朝の指導を行ってきました。はじめはぎこちなかった生徒や小学生とのやり取りも、日を重ねるごとに温かいコミュニケーションへと変化。

「先生、今日いないの?」と声をかけられるほど、子どもたちにとって先生の存在が身近なものになっていきました。地域の大人や小学校との連携も強まり、朝の登校指導は安全だけでなく、心のつながりを育む大切な時間となりました。



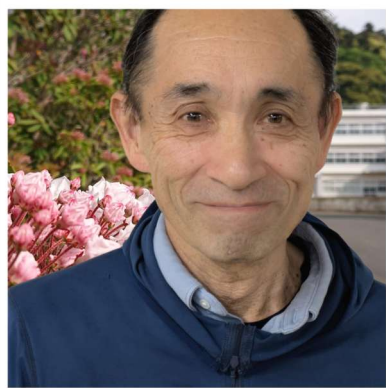
「こんにちは」で始まる元気な一日

～ 黒川先生が語る、笑顔と挨拶が生んだ心のキャッチボール～

教員1年目に「挨拶はさせるのではなく、自分からするもの」と先輩に教わった黒川先生。それ以来、どこに赴任してもこの教えを大切にしてきました。

高校に異動後は少し遠ざかっていたものの、五十川先生の誘いで再び朝の挨拶運動に参加。生徒や小学生に笑顔で声をかけると、倍以上の元気な挨拶が返ってくる——そのやり取りが、日々の励みとなりました。

挨拶を通じて会話も増え、心の距離もぐっと縮まったこの1年。「来年度もぜひ続けたい」と語る姿に、教育の原点がにじみます。



挨拶は学校の「名刺」になる

～ 蔵元先生が語る、朝の一声がつなぐ地域と学校の未来～

一昨年1月から朝の挨拶運動に加わった蔵元先生。「生徒との距離を縮めるには、挨拶が一番のコミュニケーション」との思いから毎朝校門に立ち続けました。

挨拶はやがて生徒から自然に返され、地域の小学生、中学生、住民の方々へと広がっていききました。「自分が元気をもらう存在になった」と振り返るその言葉には、心の交流がにじみます。挨拶が学校のイメージアップにもつながり、地域全体の活性化に寄与する可能性を信じ、今後も力を入れていきたいと語ります。



毎朝の「おはよう」と「こんにちは」。その一言が、人と人との心をつなぎ、学校と地域の信頼を築いてきました。三者三様の思いを胸に立ち続けた先生方の姿から、挨拶は単なるマナーではなく、未来をひらくコミュニケーションだと気づかされます。